様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １１ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ００４２９

研究課題名（和文）古典的文学作品のヨーロッパ漫画へのアダプテーションに関する研究

研究課題名（英文）On European Comics Adaptation of Literary Classics

研究代表者
森田　直子（Morita, Naoko）

東北大学・情報科学研究科・准教授

研究者番号：４０２９５１１８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,000,000円

研究成果の概要（和文）：世界文学の古典は、原文で読まれる以外に翻訳や翻案を通して広く普及してきた。1940年代のアメリカで「発明」され世界各国に普及した「名作文学の漫画版」は、文学研究者や教育者から否定的に見られることが多かったが、1970年代以降、独自の解釈にもとづく創造的な翻案も見られるようになった。本研究では、基本的には「読み物」である文学と漫画のあいだには独特の緊張関係と親和性があったこと、ヨーロッパにおける文学の漫画化において漫画はメディアとしての固有性をどのように発揮してきたか、もしくはその固有性を犠牲にしてきたか、それは社会における漫画の位置づけとどのようにかかわっているのかを明らかにしようと試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
世界文学の学習漫画から、古典の読み直し・再解釈を促す作品、自由なアダプテーションまで、文学と漫画の関係の多様性と、それぞれで発揮される漫画メディアの機能（エスニック表象など）を確認した。スイス、フランスの研究者との対話を通じて、文化圏、親しんでいる漫画の系統、書字方向等によって漫画の読み方が異なるという、比較文化・認知科学的な側面の重要性を確認した。また、古典の受容の様式として漫画というメディアを考察するため、漫画におけるデジタル化の進展に伴うインターフェースやコマ概念の変容をふまえた課題設定の必要性について確認した。

研究成果の概要（英文）：The classics of world literature have been widely disseminated through translations and adaptations in addition to being read in their original texts. The cartoon versions of literary masterpieces that were “invented” in the United States in the 1940s and spread throughout the world were often viewed negatively by literary scholars and educators, but since the 1970s, creative adaptations based on new interpretations have also been seen. This study examines the unique tensions and affinities between literature and comics, which are basically “reading materials,” how comics have either demonstrated or sacrificed their uniqueness as a medium in the European comic adaptation of literature, and how this relates to the position of comics in society.

研究分野：フランス文学、比較文学、表象文化論

キーワード：古典　バンド・デシネ　漫画　アダプテーション

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

申請者はここ数年間、コミックスを物語メディア史のなかに位置づけるという視点から、ヨーロッパコミックスの歴史的研究を行ってきた。本研究は、物語メディアとしての漫画が世界の名作文学とどのようにかかわってきたかに注目する。最初期のものとしては、19 世紀フランスの諷刺画家カムによる、『レ・ミゼラブル』などの「名作」のパロディがある。ここには漫画というメディアの権威破壊的な特性が現れているが、この段階で明確に名作文学の漫画への「翻案」とまで呼べるものは見当たらない。19 世紀終わりから、アメリカやヨーロッパの漫画は、子供向け定期刊行物において視覚的な物語メディアとして（新聞諷刺などの 1 コマ漫画とは分化した形で）発展し、その状況が、世界の漫画史でほぼ共通して 1960 年代ごろまで続く。その間、名作文学の粗筋や要約を漫画化したものは、漫画出版において重要な位置を占めている。その代表は、アメリカで 1940 年代に創刊され、1960 年代までに 169 点が刊行され、20 カ国語以上に翻訳された『クラシック・イラストレイテッド』のシリーズである。児童向けの漫画アダプテーションでは、古典の尊重や教育上の見地から、原作のプロットを変えないことが原則とされ、アダプテーションの「忠実度」が問われた。児童がいずれは原作（またはその翻訳）を読むように導くのが目的だからである。しかし、対抗文化の広がりのなかで大人向け漫画という領域が開拓されるにしたがい、フランス・ベルギーの BD を中心として、古典へのリスペクトと創造性が両立するような作品、そして古典の権威に挑戦するような作品が今日まで数多く刊行されている（フランスのフォレスト、イタリアのクレパックス、マットッティなど）。と同時に、2000 年以降は、高等教育への導入や文学系出版社とのタイアップが多くみられるが、そこには依然として漫画を単に文学に親しむツール（入口）と位置づけ、表現メディアとしての漫画自体の評価は多くの場合不問に付す状況が見られる。

リンダ・ハッチオン（*A Theory of Adaptation*, 2006）が批判しているように、アダプテーション研究においては長らく「原作」を尊重し、翻案を派生的な作品とみなしたうえで、原作がいかに忠実に別のメディアに移されているかを問う「忠実度批評」が主流だった。「名作」文学の漫画アダプテーションにおいては、文学に比べて漫画が低く見られがちということもあり、原作の尊重が優先され、漫画作品「としての」価値は全く問題になっていないことになる。ただハッチオンは、ポピュラー文化への翻案が被ってきた偏見に触れながらも、漫画（ハッチオンの用語は graphic novel）へのアダプテーションの特質についてはわずかしか論じておらず、さらに研究を進める余地があった。

本研究の扱う問いとは、「図像を媒介とした社会諷刺メディアから派生し、しばしば笑いを特徴とする長篇漫画が、古典的文学を漫画化するというプロセスにおいてメディアとしての固有性をどのように発揮してきたのか、もしくはその固有性を犠牲にしてきたのか、それは社会における漫画の位置づけとどのようにかかわっているのか」というものである。この問いは、さまざまな研究の規模（人数や期間）によって取り組むことができるが、まずは単独の研究として、1950 年代から現在まで（断絶はあるものの）文学の漫画化が比較的継続的な流行現象として観察できるフランス語圏の BD を中心として、その影響を強く受けたヨーロッパ漫画を対象とした。また、必要に応じて、アメリカンコミックスや日本のマンガの状況も比較材料とした。

２．研究の目的

本研究は、「絵と言葉の組み合わせ」・「人物の顔図像を並べた語り」・「本の形」の三要素をもつ長篇漫画の物語技法を通時的に見直すという、申請者の 10 年来の長期的展望のなかで、同じく物語メディアである「文学（特に小説）」に対して漫画がどのようなかかわりを持ってきたかを解明することを目的とした。

本研究は、従来の文学研究において蓄積されてきたキャノン形成や作り直しに関する議論とは異なり、文学というシステムの外に位置付けられる漫画から「文学の古典（キャノン形成）」にアプローチした。漫画によって翻案される「古典」のラインナップとして、SF や冒険もの、推理小説（ヴェルヌ、スティーヴンソン、ポー等）の占める割合が多いこと、2000 年以降にアジアや中東の「古典」を扱うものが表れることは、キャノンや「世界文学」についての漫画制作者側の考え方を反映しているが、それは文学プロパーの研究者や編集者の考えとは必ずしも一致しない。名作文学の漫画化を考察することで、文学とは何か、物語とは何か、という問いが漫画の側から突き付けられているとの前提のもとに、本研究を進めた。

３．研究の方法

（1）文学の古典の位置づけを維持し、活性化する目的のために漫画がどのように利用されてきたのか、そのメディア的特性がどのように発揮され、どのように犠牲になったのかを考察する。具体的には『クラシック・イラストレイテッド』のヨーロッパにおける波及や模倣の状況を調査し、「古典」のラインナップとその特徴、翻案スタイルや編集方針、ヨーロッパへの影響、特に『クラシック・イラストレイテッド』に追随してフランスで刊行された『モンディアル・アヴァンチュール』とその代表的 BD 作家ルネ・ジフェの活動を考察し、漫画メディアの固有性の扱いについて考察する。また、1980 年代のシェイクスピアの漫画化を刊行した Oval Collection や、現在刊行中のシュテファン・ウエによるプルースト『失われた時を求めて』の翻案と教育界の反応、漫画界の反発について調査する。

（2）古典の漫画化を通して漫画の文化・教育における位置づけは変容する（した）のか、手段としての漫画でなく、漫画自体を評価する姿勢につながっているかを考察する。

古典の漫画化が漫画の地位を向上することにつながっているように見える事例としては、近年増加している BD を題材とする領域横断型のワークショップ、学術研究会などがある。そうした場における BD の扱いも観察しつつ、情報伝達のツールとしての漫画を評価しているのか、漫画自体の創造性や表現技法への評価と文学の古典の尊重とはどのように両立しうるのかを考察する。

（3）文学と漫画のメディア的特質についての、理論的なまとめを行う。具体的には、古典の漫画化が「文学」「漫画」さらに（メディアを横断すると考えられる）「物語」概念へのどのような問題提起をはらんでいるのかを考察する。漫画は、言語的なシナリオから離れることによってこそ、視覚的メディアにしかできない非言語的物語表現を獲得できるのか否か、などの問題を考察し、本研究をまとめる。

４．研究成果

本研究の着手時に確認したのは、児童（もしくは大人）向けの学習（情報）漫画としての古典的名作の翻案から、古典の読み直し・再解釈を促すアダプテーション、さらには古典の権威からの解放に誘うような挑発的なアダプテーションまで、時代ごとの変遷や多様なアプローチが見られることである。このことをふまえ、一年目は、「名作文学」の漫画へのアダプテーションが、古典の批判的読み直し・再解釈として機能する事例として、ウィル・アイズナーによるディケンズ『オリヴァー・ツイスト』のアダプテーション『ユダヤ人フェイギン』を学生との共同研究の形で考察した（学生指導の一環であり、自著論文としては未刊行）。エスニック表象という観点からの古典の読み直しと、漫画のメディア固有性の活用の両面から分析した。

二年目は、フランス小説の日本における受容を漫画の形で表現した高野文子『黄色い本』に関して日仏研究者間で対話の場を持ち、漫画を通した古典の読み直し・再解釈の可能性や困難について議論した。厳密な「アダプテーション」とはいえない事例であるが、文化圏や受容のコンテクストの違いによる、文学の政治性の再解釈可能性、日本の漫画とバンド・デシネの（共通項よりも）差異の重要性、「古典」の地位の流動性などに関して多くの発見があった。

三年目は、スイス、フランスの研究者との対話を通じて、学習（情報）漫画としての翻案、古典の読み直し・再解釈を促す作品から、より自由なアダプテーションまでを確認していくなかで、若干の軌道修正の必要に直面した。読み手の属する文化圏や親しんでいる漫画の系統、書字方向等によって漫画の読み方（何をどういう順で見て、読んでいるのか）が異なるという、比較文化・認知科学的な側面の重要性を確認し、共同研究の方法論の検討をおこなった。また、漫画におけるデジタル化の進展に伴う、インターフェースやコマ概念の変容をふまえ、古典の受容の様式として漫画というメディアを考察するための課題設定の必要性について確認した。

今後は、「アダプテーション」と「メディアミックス」の共通点と差異、歴史事象を多く含む古典作品がすでに「歴史叙述」のアダプテーションであるという、「アダプテーションの入れ子構造」についても継続して取り組んでいく。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　4件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Naoko Morita
２．発表標題 L ’ usage des edifices de spectacle romaines dans l ’ organisation de l ’ espace de la planche
３．学会等名 Les edifice de spectacle de l ’ Antiquite; romaine dans nos societes contemporaines（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 MORITA Naoko
２．発表標題 Kiiroi Hon de Takano Fumiko. Une lectrice des Thibault.
３．学会等名 Conference a MSHS Potiers（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 MORITA Naoko
２．発表標題 Une lectrice des Thibault en manga : Kiiroi Hon (1999) de Takano Fumiko dans le cadre du Cours Le Japon vu par les manga
３．学会等名 Conference exceptionnelle (via zoom), Universite de Geneve（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 森田直子
２．発表標題 支持体について
３．学会等名 文学としての人文知（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 森田直子
２．発表標題 シンポジウム「線画の教育＝教訓（レッスン）　キャラとイラストの表象文化論」
３．学会等名 表象文化論学会第15回研究発表集会（招待講演）
４．発表年 2021年

〔図書〕　計4件

１．著者名 Frederic Chauvaud et Denis Mellier (dir.)	４．発行年 2024年
２．出版社 Presses Universitaires de Rennes	５．総ページ数 230
３．書名 Le corps en fete dans la bande dessinee	

１．著者名 Laurent Baridon et Marie Laureillard (dir.)	４．発行年 2024年
２．出版社 Hemispheres	５．総ページ数 418
３．書名 Caricatures en Extreme-Orient : Origines, rencontres, metissages	

１．著者名 Frederic Chauvaud et Denis Mellier (dir.)	４．発行年 2023年
２．出版社 Presses Universitaires de Rennes	５．総ページ数 258
３．書名 Squelettes, ectoplasmes et fantomes dans la BD	

１．著者名 小川公代・吉村和明（編）	４．発行年 2021年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 503
３．書名 文学とアダプテーションII	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
スイス	ジュネーヴ大学			
フランス	ポワチエ大学			
フランス	CEEI			